



TITLE:

タイポロジー・プロジェクト:研究者目線で支援サービスを継続するためのプロジェクト

AUTHOR(S):

鮎川, 慧; 今井, 敬吾; 仲野, 安紗

CITATION:

鮎川, 慧 ...[et al]. タイポロジー・プロジェクト:研究者目線で支援サービスを継続するためのプロジェクト. 2016: P_17.

ISSUE DATE:

2016-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/234536>

RIGHT:

タイポロジー・プロジェクト

研究者目線で支援サービスを継続するためのプロジェクト

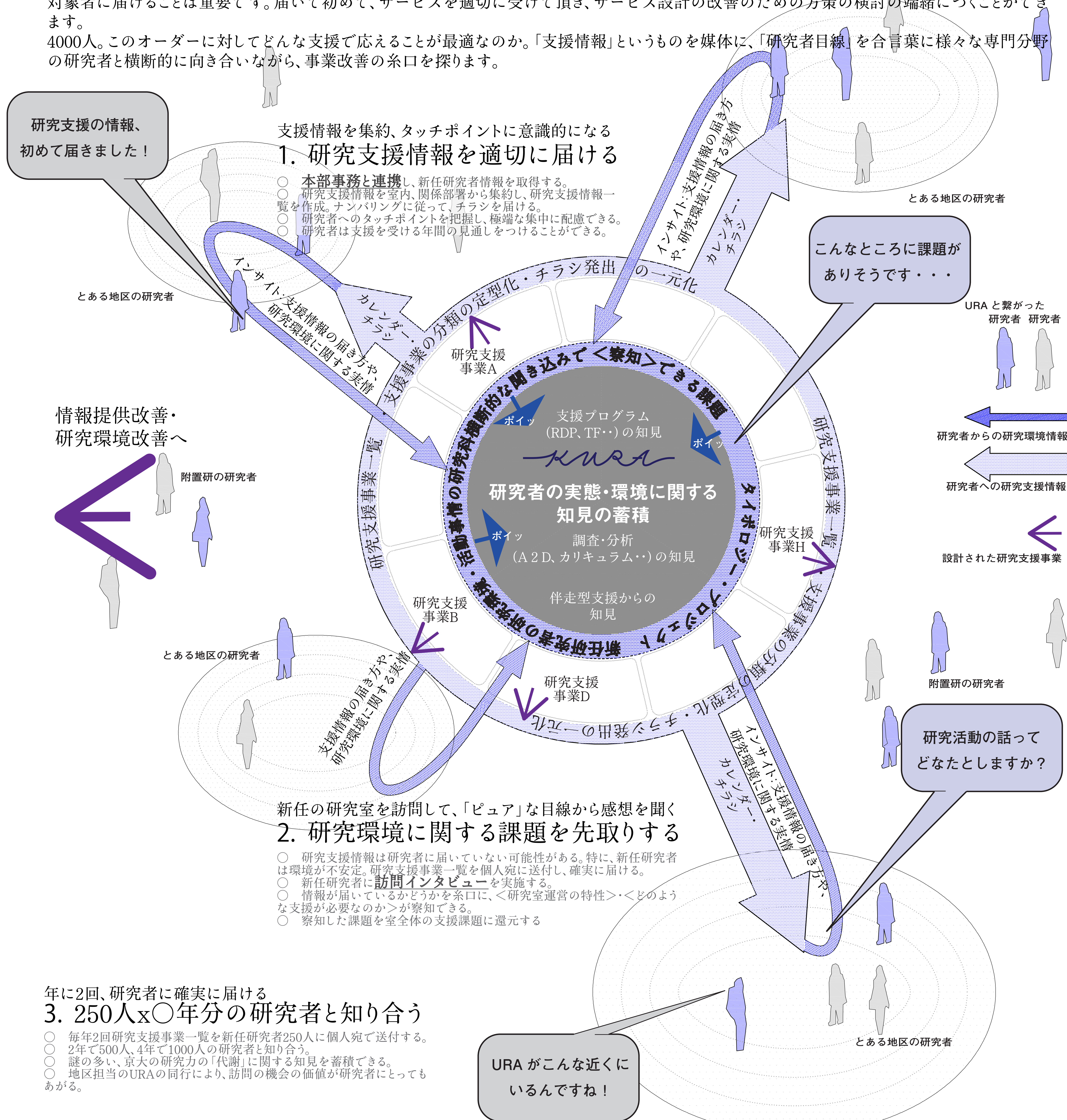
京都大学学術研究支援室

鮎川慧・今井敬吾・仲野安紗

京都大学は4000人近くの研究者を抱える総合大学です。その研究内容は日本国内を見渡しても類を見ないほど非常に多岐に渡っており、研究者の1日の生活や、活動場所、研究環境には定番、というものはありません。これらの研究者に必要な情報を届けるための仕組みもまた、なかなか定型化できない、というのが実情だと考えられます。

一方、学術研究支援室では様々な研究支援サービスを設計・運営しています。このサービスの価値を最大化するために、研究支援情報を適切に対象者に届けることは重要です。届いて初めて、サービスを適切に受けて頂き、サービス設計の改善のための方策の検討の端緒につくことができます。

4000人。このオーダーに対してどんな支援で応えることが最適なのか。「支援情報」というものを媒体に、「研究者目線」を合言葉に様々な専門分野の研究者と横断的に向き合いながら、事業改善の糸口を探ります。



年に2回、研究者に確実に届ける

3. 250人x○年分の研究者と知り合う

- 毎年2回研究支援事業一覧を新任研究者250人に個人宛て送付する。
- 2年で500人、4年で1000人の研究者と知り合う。
- 謎の多い、京大の研究力の「代謝」に関する知見を蓄積できる。
- 地区担当のURAの同行により、訪問の機会の価値が研究者にとってもある。

情報の伝わり方の質を高める工夫

- ## ○ 研究ステージの分類 x 支援内容の分類

外部資金獲得支援

学内ファンド提供
Grants at Kyoto University
京大研究者限定の研究活動状況に応じ

出展者募集
Call for Presentations
研究発表の機会を様々な形式

イベント案内
Events and Seminars
研究活動に役立つ情報やスキ

どんな言葉がすぐにわかるのかを、プロトタイプを使った研究者からの反応を元に調べました。
その結果、3つの研究ステージと4つの研究支援内容の分類を組み合わせ、研究支援情報を端的に説明しています。

- チラシ(研究支援情報)・カレンダー(研究支援情報一覧)・web(詳細と更新情報)の連動

